

**2012年6月改訂 (第6版)

*2009年6月改訂

貯法

保存条件 室温保存

容器 気密容器

使用期限 箱に記載

日本標準商品分類番号

873231

承認番号 16100AMZ00047000

**薬価収載 2012年6月

販売開始 2006年1月

再評価結果 1977年10月

糖 類 剤
日 本 薬 局 方
ブドウ糖
**〈ブドウ糖「日医工」〉
GLUCOSE

【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

(経口)
ブドウ糖吸収不良の患者 [症状が悪化するおそれがある。]
(注射)
低張性脱水症の患者 [水分の過剰投与により、低張性脱水状態が進行し、症状が悪化するおそれがある。]

【組成・性状】

1. 組成

1g中 日本薬局方ブドウ糖 1g含有。

2. 製剤の性状

本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。

【効能・効果】【用法・用量】

効能・効果	用法・用量
(経口)	
経口的栄養補給	必要量を粉末あるいは水溶液として経口投与する。なお、年齢、体重により適宜増減する。
ブドウ糖負荷試験	通常成人1回ブドウ糖として50～100gを経口投与する。なお、年齢、体重により適宜増減する。
(注射)	
脱水症特に水欠乏時の水補給、薬物・毒物中毒、肝疾患	通常成人1回5%液500～1000mLを静脈内注射する。点滴静注する場合の速度は、ブドウ糖として0.5g/kg/hr以下とすること。なお、年齢、症状により適宜増減する。
循環虚脱、低血糖時の糖質補給、高カリウム血症、心疾患 (GIK療法)、その他非経口的に水・エネルギー補給を必要とする場合	通常成人1回10～50%液20～500mLを静脈内注射する。点滴静注する場合の速度は、ブドウ糖として0.5g/kg/hr以下とすること。なお、年齢、症状により適宜増減する。
注射剤の溶解希釈剤	適量を用いる。なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

(経口)

(1)カリウム欠乏傾向のある患者 [ブドウ糖の投与によりカリウムが細胞内に移行し、一時的に血清カリウム値が低下し、症状が悪化するおそれがある。]
(2)糖尿病の患者 [高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。]

(注射)

(1)カリウム欠乏傾向のある患者 [ブドウ糖の投与によりカリウムが細胞内に移行し、一時的に血清カリウム値が低下し、症状が悪化するおそれがある。]
(2)糖尿病の患者 [高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。]

(3)尿崩症の患者 [本症には適切な水分、電解質管理が必要であり、本剤の投与により電解質等に影響を与え、症状が悪化するおそれがある。]
(4)腎不全の患者 [水分の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(経口)

	頻度不明
消化器 ^{注)}	悪心・嘔吐、下痢、腹痛

注) 大量を経口投与するとき起こすことがあるので慎重に投与すること。

(注射)

	頻度不明
大量・急速投与 ^{注)}	電解質喪失

注) このような症状を起こすことがあるので、慎重に投与すること。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

(注射)

- (1)皮下大量投与により血漿中から電解質が移動して循環不全を招くおそれがあるため皮下投与しないこと。
- (2) (高張液) 血栓静脈炎を起こすことがあるので、慎重に投与すること。
- (3)高濃度液投与の急激な中止により低血糖を起こすおそれがある。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ブドウ糖 (Glucose)

化学名：D-Glucopyranose

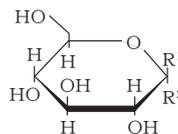
分子式：C₆H₁₂O₆

分子量：180.16

性状：α-D-グルコピラノース、β-D-グルコピラノース又はその混合物である。

水に溶けやすく、エタノール (95) に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

構造式：



α-D-グルコピラノース：R¹=H, R²=OH
β-D-グルコピラノース：R¹=OH, R²=H

【包装】

500g

【問い合わせ先】

日医工株式会社 お客様サポートセンター
〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21
☎(0120)517-215 Fax (076)442-8948